

5、熊野神社

〔社名〕クマノノカミノヤシロ



〔所在〕平田市本庄町四六八に鎮座

平田駅下車、県道平田―川下線西田小学校北東約一キロメートル

〔祭神〕伊弉册命、事解男命、速玉男命

境内神社祭神、法加神社（多々良四郎邦嘉霊）

〔由緒〕室町末期戦国時代の武将山口の城主大内義隆は、天文二十年（一五五二）九月にその家臣陶晴賢すえはるかたの叛逆によって殺された。ここで大内氏の一族であった多々良四郎邦嘉は、一人娘とその養子日

野大納言資宜すけのあきの同族日野左衛門尉邦定じょうくにとだとともに、乱を出雲に逃れ口宇賀北村に居住して氏を北村と改めた。邦嘉は依然から紀伊国の熊野本官ほんどりを深く崇敬して、毎年社参しておったが、老年となりそれができなくなり、御分霊みぶんしょうを勧請して熊野神社を建立、後に平田、万田、本庄に分家し神社を建立した。

邦嘉は後、法体して法加と号し現在境内社に祀られている。邦嘉は弓の達人であり、また医術にも長じていたと言われる。

御祭神、（事解男命）（速玉男命）はコトサカノオノミコトと申しあげ、紀に

「乃ち唾つばく神を、号なづけて速玉の男と曰いす。次に掃はらふ神を、泉津事解の男と号なづく。」

とある。泉津よもつは、死者のゆく所、黄泉国におけるの意。イザナギの尊がイザナミの尊を慕い給うて黄泉国にお出になつたが、イザナミの尊の死体を嫌がって離縁しようと仰しやり、身をお掃いになつた時に生れ給うた神・コトは夫婦のちぎり。サカは離で離婚のこと。又イザナギノ尊が同じく死体のあまりの醜みにくさに唾つばをお吐きになつた時の神が、ハヤタマノオノミコトである。

〔神職〕後藤忠夫氏が現宮司

〔祭祀〕十一月一日

〔氏子崇敬者〕

〔境内地〕一、一三五坪

〔社殿〕本殿、八幡造、間口一間、奥行一間、幣殿、間口一・五間、拜殿、間口六間、奥行二間

〔其他主たる建物〕神楽殿

〔神紋〕二重亀甲に三